

平成23年度 市町村における「地域づくり型生涯学習」に関する調査 取りまとめ結果 (平成24年1月 人づくり文化課実施)

1. 目的	「岐阜県生涯学習振興指針～地域づくり型生涯学習の推進～」(H19.3月)策定後の、市町村における「地域づくり型生涯学習」の推進状況を把握する。
2. 対象	県内42市町村(回答率 100%)
3. 時期	平成24年1月23日～平成24年2月24日

A 生涯学習の推進体制の整備について

1 生涯学習振興計画等の有無

あ る (5 2 . 4 %)	な い (4 7 . 6 %)
2 2 市町村	2 0 市町村

生涯学習振興計画等の名称

市町村名	振興計画等の名称	主な内容
岐阜市	第2次岐阜市生涯学習基本構想	・現代的課題を中心とした学習機会の充実 ・生涯学習の成果が生かされる環境づくり ・「生涯学習によるまちづくり」を進める施策の体系化
羽島市	羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画	市民、企業、行政の力を終結して自立した羽島市を構築
山県市	教育振興基本計画	誰もが自主的に学ぶ生涯学習のまちづくりのための環境整備を進める
本巣市	教育基本計画	・生涯学習施設の整備・活用 ・市民との地域づくり事業などの充実 ・ボランティア人材バンクの設立と活用
北方町	北方町教育総合5カ年計画	学校教育を含めて、今後5年間の北方町の教育方針を示したもの
大垣市	大垣市教育方針	今後10年先を見据えた大垣市教育のあるべき姿と教育行政を進めるための基本方針
垂井町	生き生きライフ推進構想	健康で充実した生きがいのある人生を送るために生涯を通じて学び続け、そのふれ合いによって共に支える地域づくりを目指す
神戸町	神戸町社会教育計画	「神戸町第4次総合計画」を上位計画とする社会教育分野の計画
輪之内町	社会教育計画	生涯学習・家庭教育・文化振興・スポーツ振興・人権同和教育について
安八町	生涯学習計画	事業の趣旨と事業を行う時期等
揖斐川町	社会教育計画	各公民館の活動計画等
大野町	大野町生涯学習のまちづくり推進計画	諮問書、推進に関する答申、町民憲章の具現化、アンケート等
池田町	池田町社会教育計画	社会教育・文化振興・スポーツ振興の方針と重点施策

関市	関市生涯学習まちづくり計画	市民が、いつでも、どこでも学びやすく、学習成果が評価され、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の構築から市民主導のまちづくり
美濃市	美濃市生涯学習マスタープラン	「生涯にわたり一人ひとりが自ら楽しく学び笑顔の広がるまち」を基本理念に、10年間の生涯学習への市の方針を定める
可児市	可児市教育基本計画	・多様な生涯学習機会の提供 ・市民の主体的な生涯学習活動の支援
富加町	富加町教育計画「社会教育計画」	富加町社会教育の方針と重点
御嵩町	21世紀教育・夢プラン	教育の方針と重点 ・家庭教育の重点、重点事業と具体的実践事項 ・社会教育の重点、重点事業と具体的実践事項
土岐市	土岐市教育振興基本計画 夢・絆プラン	今後5年間に取り組むべき施策を記載 ・家庭の教育力を高める ・地域の教育力を高める ・地域づくり型生涯学習を推進
瑞浪市	21世紀瑞浪市教育の方針	教育・文化・スポーツの21世紀ビジョンを簡潔にまとめた計画
恵那市	恵那市三学のまち推進計画	郷土の先人佐藤一斎の三学の精神を理念とし、市民みんなで取り組む生涯学習「市民三学運動」を实践。 重点的取組：1.読書のすすめ 2.求めて学ぶ 3.学んで生かす
高山市	高山市生涯学習振興計画	基本理念「誰もが生涯を通じて学ぶことのできる、地域に根ざした生涯学習の推進」

2 地域住民や関係団体の代表者などで構成する生涯学習審議会等の組織の有無
(社会教育委員の会は除く)

あ る (5 7 . 9 %)	な い (4 2 . 1 %)
-------------------	-------------------

24市町村

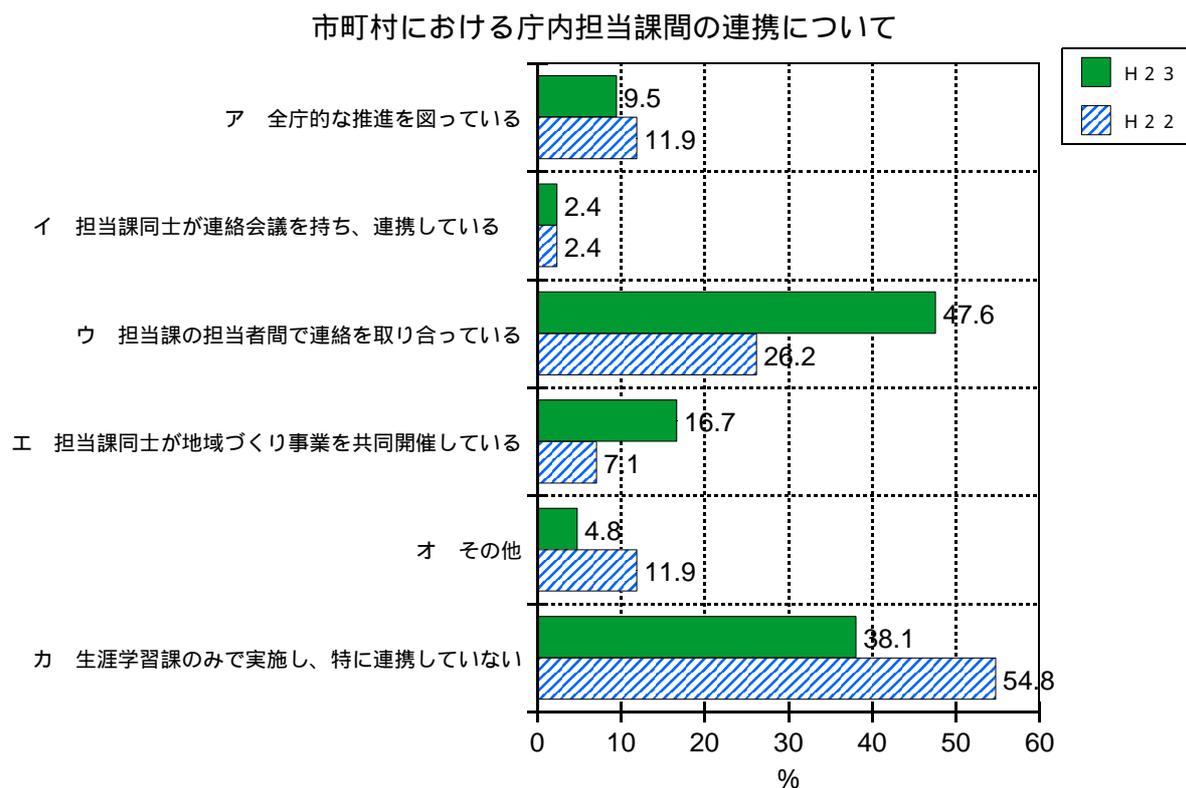
18市町村

市町村名	組織の名称
岐阜市	岐阜市民生涯学習推進協議会
羽島市	羽島市生涯学習都市推進会議
各務原市	生涯学習推進協議会
山県市	生涯学習リーダーの会
本巣市	文化財保護審議会、本巣市民文化ホール運営協議会、しんせいほんの森運営協議会
笠松町	公民館運営協議会兼生涯学習推進会議
北方町	北方町政策審議会
海津市	家庭教育推進協議会、公民館運営協議会
養老町	「親孝行と生涯学習を進めるまち養老」町民会議運営委員会
神戸町	公民館運営審議会

揖斐川町	公民館運営審議会、公民館運営委員会
大野町	大野町生涯学習推進協議会
関市	関市生涯学習連絡会議
美濃市	美濃市生涯学習推進協議会
郡上市	郡上学構築懇談会
可児市	公民館運営審議会
富加町	生涯学習アドバイザーの会
七宗町	七宗町生涯学習推進協議会
多治見市	公民館活性委員会
土岐市	公民館運営審議会、公民館運営協議会
瑞浪市	瑞浪市生涯学習推進委員会
恵那市	恵那市市民三学運動推進委員会、市民三学地域委員会
高山市	高山市生涯学習施設運営審議会
飛騨市	飛騨市生涯学習推進会議

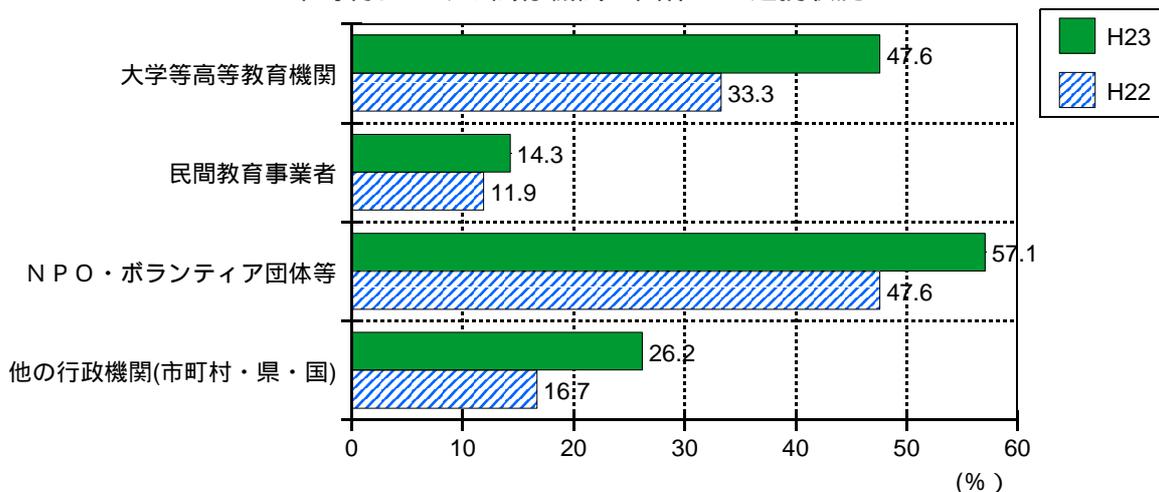
B 「地域づくり型生涯学習」推進について

3 庁内担当課（生涯学習担当課と他の生涯学習関係課(まちづくり担当課)）との連携状況



4 生涯学習関係機関・団体との連携状況

市町村における関係機関・団体との連携状況



連携先	連携の内容
大学等高等教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の企画・運営に関する指導・助言 ・ 講師・指導者の派遣 ・ 連携講座の実施 ・ 推進基本計画等の策定
民間教育事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の派遣 ・ 講座の委託
NPO・ボランティア団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の委託、協働実施 ・ 事業運営の協力 ・ 講師の派遣
他の行政機関（他の市町村、県、国）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報交換 ・ 講師の派遣 ・ 隣接市町村との合同事業実施

・ 「大学等高等教育機関」や「NPO・ボランティア団体等」との連携は多くの市町村で図られている。
 ・ 全般的に事業実施にあたり、関係機関・団体と連携している市町村は増加している。

5 「地域づくり型生涯学習」の推進を意識した取組の必要性

未回答 1 市町村



・ 市町村の「地域づくり型生涯学習」に関する理解は高く、推進の必要性も認識も高い。
 必要性を感じない市町村の理由
 ・ 「道徳の町づくり」条例に基づいた諸活動をすでに取り組んでおり、それが「地域づくり型生涯学習」に相当する取り組みとなっているため、新たな「地域づくり型生涯学習」の推進は重複してしまう部分があるため。
 ・ 現段階では、生涯学習計画を立てていないため必要性を感じないが、今後具体的に計画を立てる段階には必要になると考える。

6 「地域づくり型生涯学習」の推進を意識した取組の実施状況

実施した(76.2%)	実施なし(23.8%)
-------------	-------------

32市町村

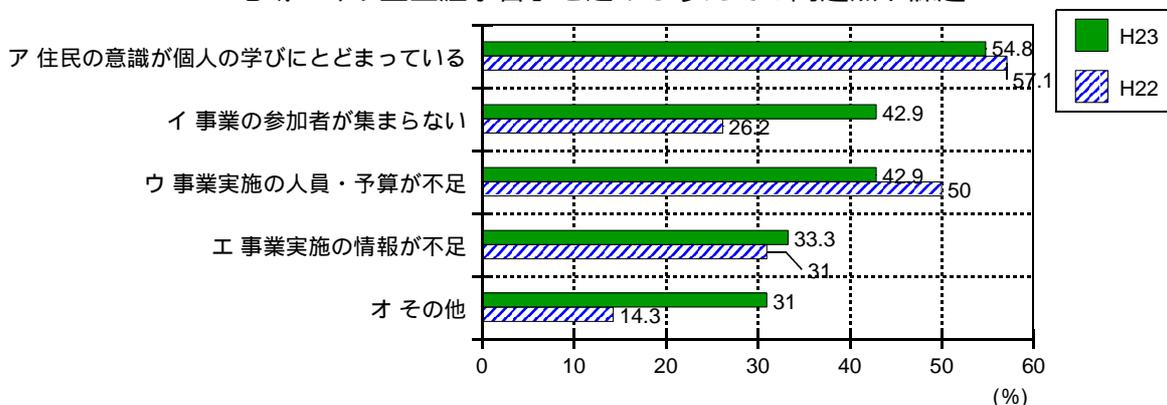
10市町村

【実施事例】

- ・公募した市民講師が企画運営する連続の生涯学習講座。
- ・「歴史・文化」「自然」「食」をテーマとした体験講座の博覧会を1カ月にわたって開催し、地域の魅力を市内外に発信。
- ・子育てサポーター・図書館サポーター養成講座などを開講し、市民参画の場を設けた。
- ・「地域学総合講座」を実施し、地域の現状や課題、今後の取組を市民に知らせる機会とした。
- ・オープンキャンパス事業(市民が教える市民の講座)

7 「地域づくり型生涯学習」を進める上での問題点や課題

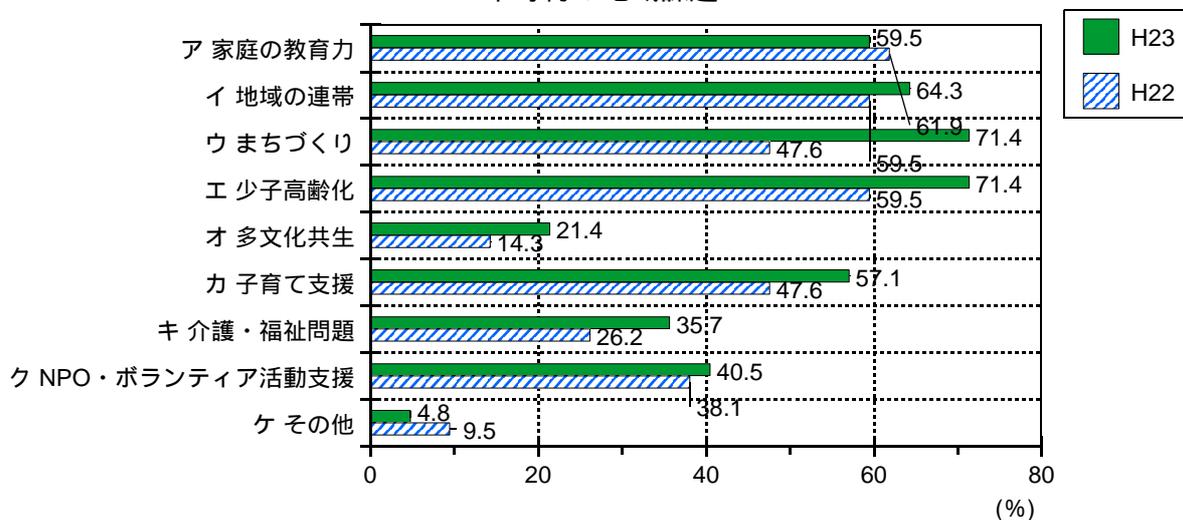
「地域づくり型生涯学習」を進めるうえでの問題点や課題



・『住民の意識が個人の学びにとどまっている』ことや『参加者が集まらない』こと、および『市町村(行政)の人員・予算の不足』を事業を推進する上での問題点・課題としてあげている。

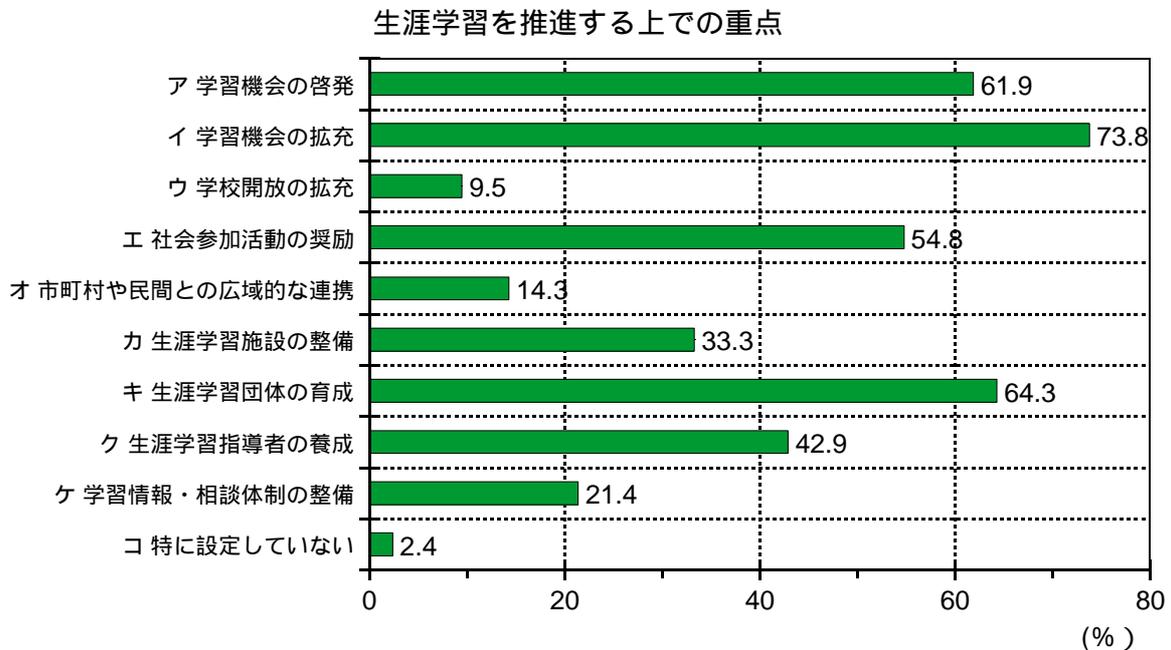
8 市町村の地域課題

市町村の地域課題



・過半数の市町村が地域課題として、「ア 家庭の教育力」「イ 地域の連帯」「ウ まちづくり」「エ 少子高齢化」「カ 子育て支援」をあげている。

9 生涯学習を推進する上での重点 <H23新規>



生涯学習推進上の重点は、『学習機会の拡充および啓発』『生涯学習団体の育成』『社会参加活動の奨励』が上位を占めている。

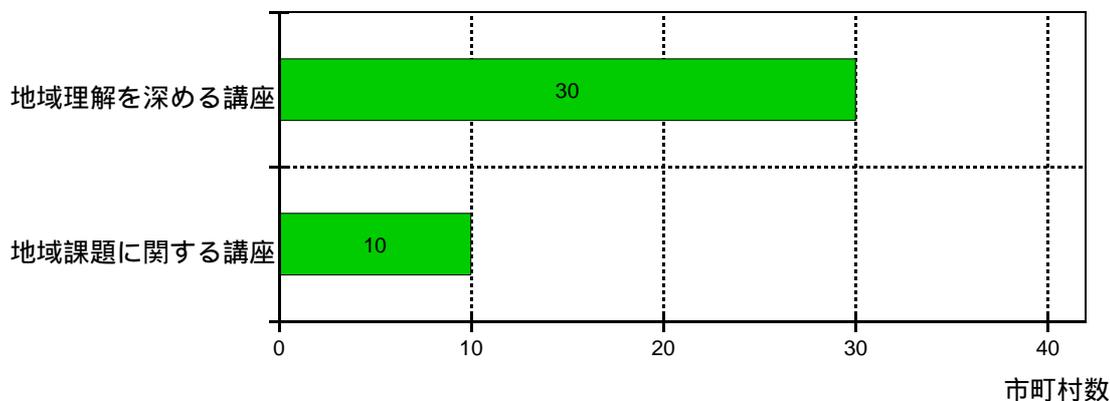
C 市町村での取組について

10 生涯学習講座の中で、人気のある講座や分野

- ・健康体操、親子体操教室、太極拳など体を動かす講座。
- ・料理教室など料理関係の講座。
- ・小学生を対象としたスポーツ、英会話、調理の講座。
- ・ふるさと歴史講座をはじめとする歴史・文化を学ぶ講座。
- ・デジカメ講座やパソコン講座。
- ・学びの散策シリーズ（見る・学ぶ・歩くがワンセット）。
- ・子育てサポーター養成講座。
- ・公民館が実施する地域住民が講師となる講座。
- ・生活の中での技術を扱う分野（剪定・魚の捌き方など）。
- ・悠々学習講座（受講生が主体となって学習内容を決定し、学習を進める講座）。
- ・夏休み期間中の小学生対象の生涯学習講座。

1 1 「地域理解を深める講座(ふるさと講座や地域学講座)」や「地域課題に関する講座(高齢化、少子化、環境など)」の開催状況 <H23新規>

「地域理解」や「地域課題」に関する講座の開講状況

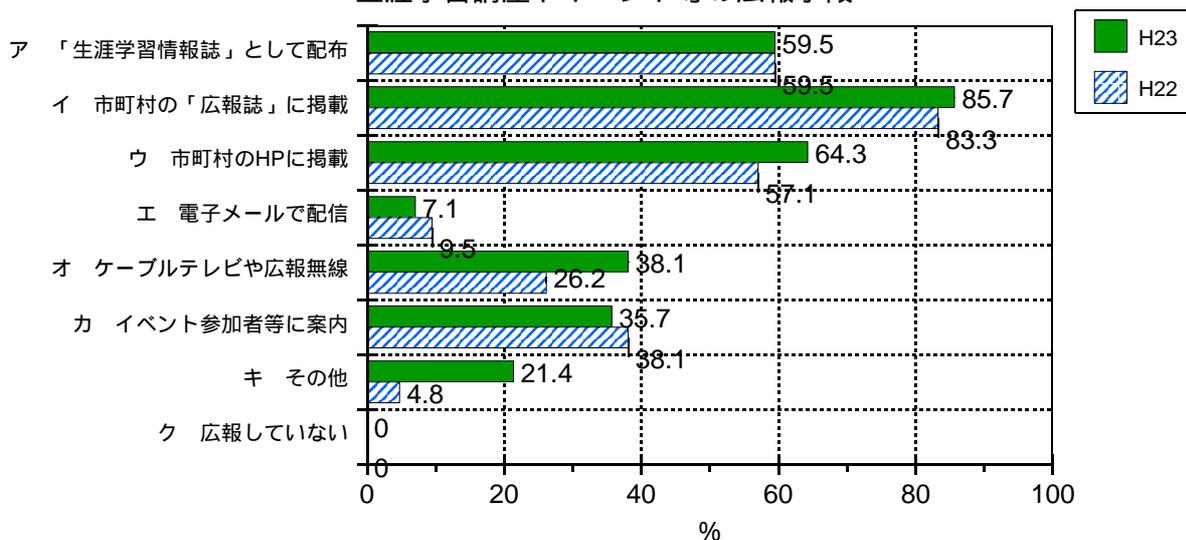


「地域理解を深める講座」は30市町村で延べ70講座
 <講座例>
 「鶴飼を科学する」、円空彫り体験教室、ふるさと再発見！歴史探訪と健康づくり、かがやき市民講座、里山体験教室、史跡ウォーキング教室、古文書解読講座、未来塾、みんなで学ぶ地域・安全、地域学習連携講座、地域ふれあい歴史散策、成人大学「伝承と史実」、ふるさと歴史発見ツアー、ふるさと資源発見講座、地域塾、郷土季節料理、歴史案内ボランティア講座、子ども歌舞伎 等

「地域課題に関する講座」は10市町村で延べ16講座
 <講座例>
 学力向上サポーター研修講座、「地域づくり型生涯学習」モデル事業、まちづくり講座、地域デビュー講座、ふるさと考現学、まちづくりの将来像、認知症理解講座 等

1 2 生涯学習の講座やイベントの広報手段

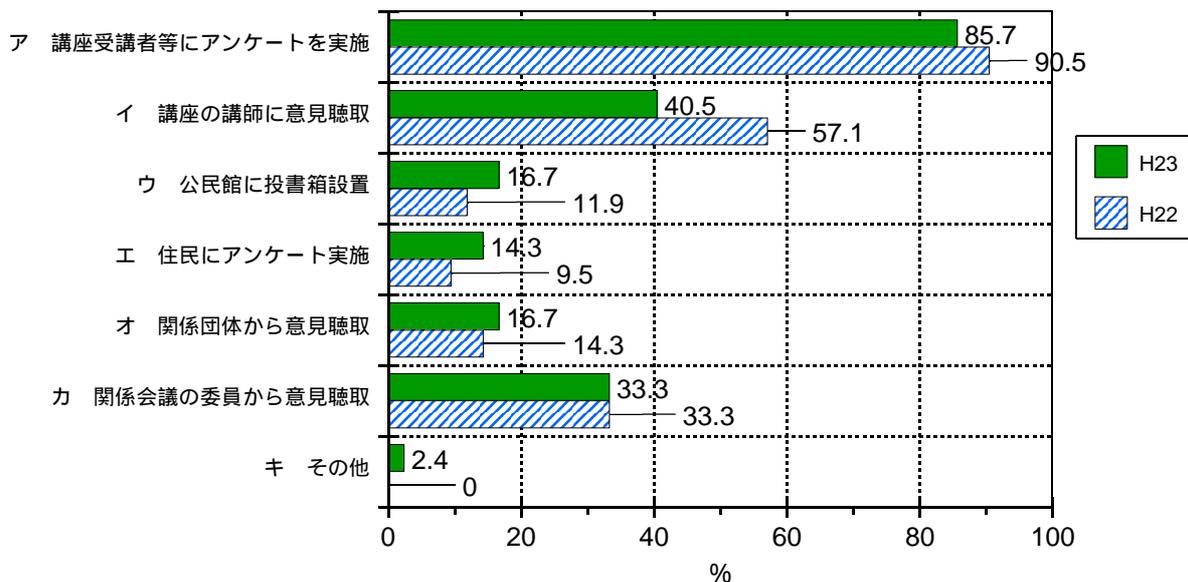
生涯学習講座やイベント等の広報手段



・広報手段は、「市町村の広報誌」「生涯学習情報誌」「市町村HP」が過半数を占める。

1 3 生涯学習関連事業を進めるうえでの住民ニーズの把握

住民ニーズの把握手段



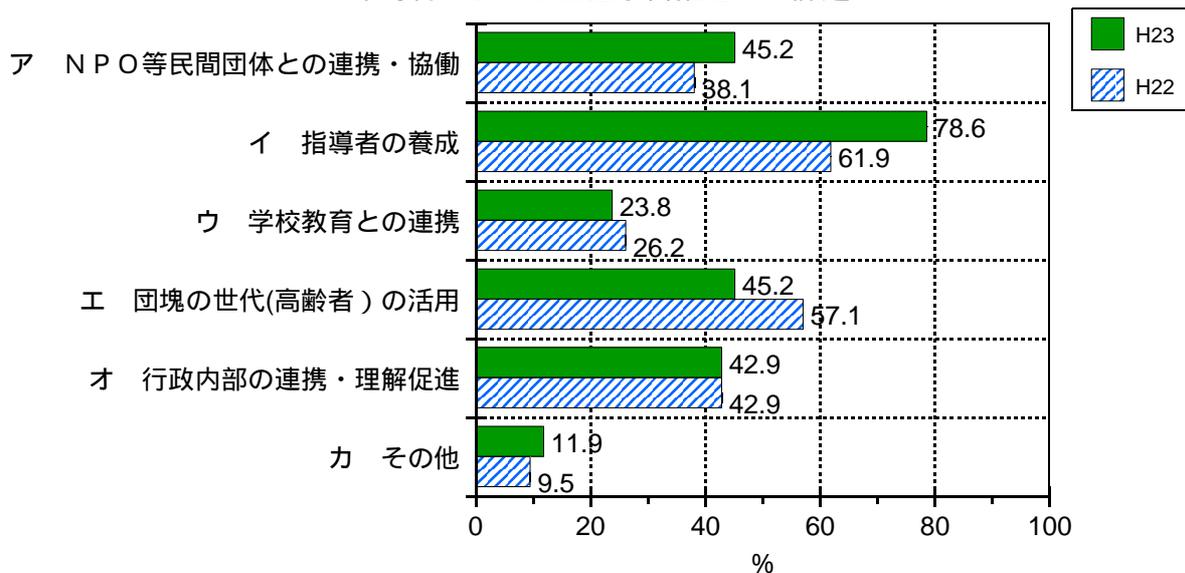
・住民ニーズの把握は、「受講者へのアンケート」や関係者からの意見聴取が主である。

1 4 今年度の取組の中で市町村の特徴的なもの（生涯学習講座を含む）

略

1 5 生涯学習推進上の課題

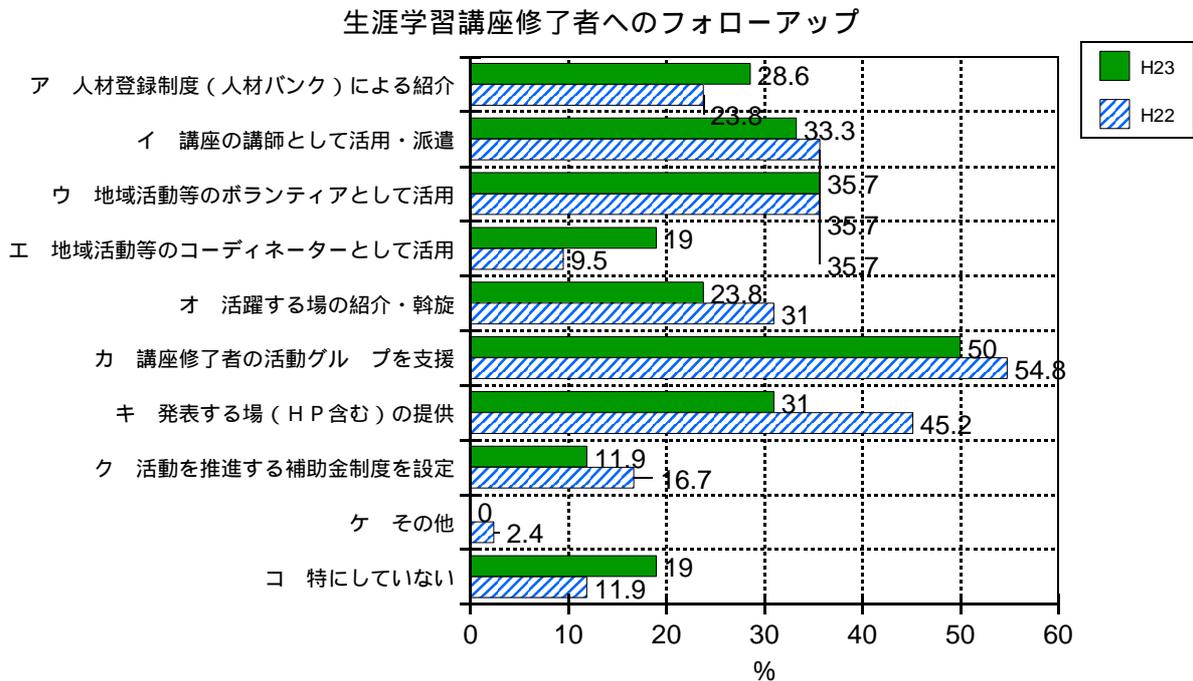
市町村における生涯学習推進上の課題



・指導者養成、団塊の世代(高齢者)の活用や関係団体との連携・協働に関する課題がある。
 ・カ その他 として、「講座の参加者が集まらない」「事業実施における予算処置」「行政担当者の生涯学習に関わるコーディネート能力の育成」があげられている。

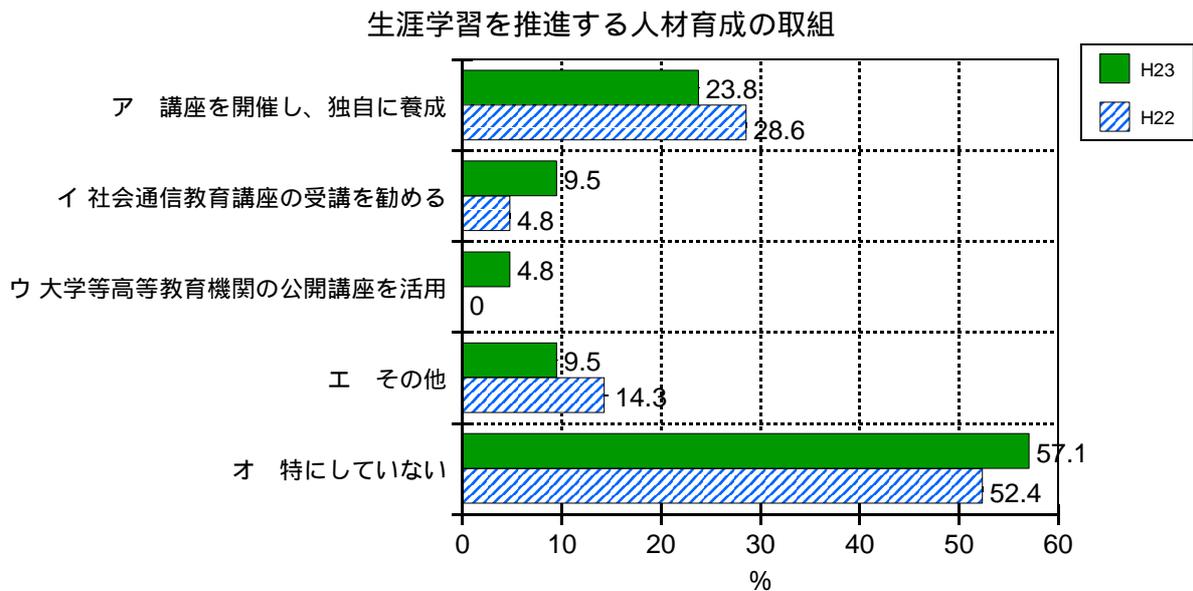
D 人材の育成・活用について

1 6 生涯学習講座の修了者に対する取組（フォローアップ）



・講座修了者に対するフォローアップの取組は、図られている。特に、半数の市町村が修了者の活動グループの支援を行っている。

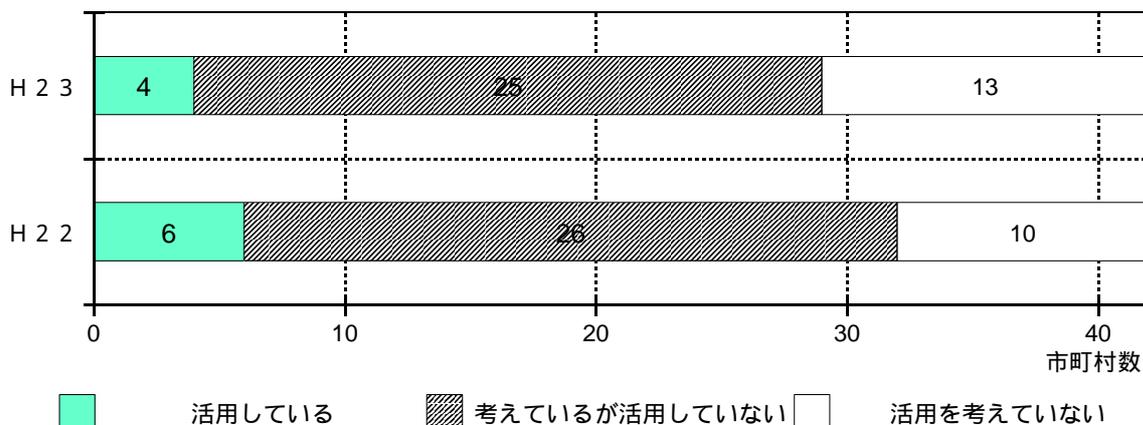
1 7 生涯学習を推進する人材の育成について



・半数の市町村が、生涯学習を推進する人材の養成を特に行っていない。
 ・人材養成の段階から、養成した人材をいかに活用するかの段階に入っている。

1 8 県が養成した「岐阜県生涯学習コーディネーター」の活用について

「岐阜県生涯学習コーディネーター」の活用状況



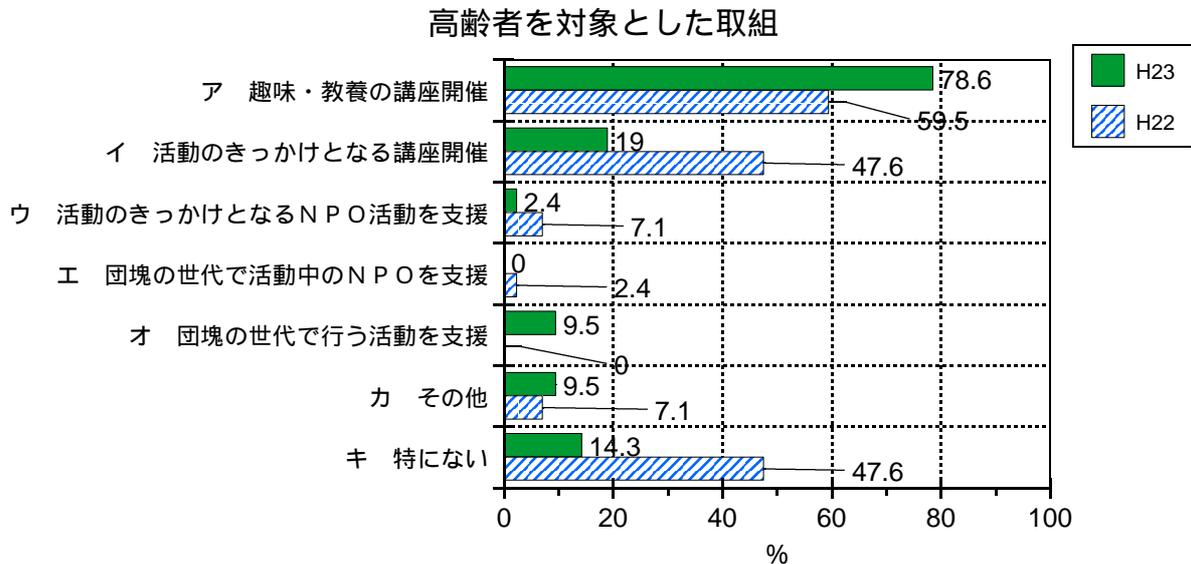
アの活用例	<ul style="list-style-type: none"> ・通信講座「生涯学習ボランティアコース」の受講生に対し、市独自にスクーリングを実施し、その講師を依頼。 ・町の生涯学習アドバイザーとして、生涯学習講座の企画・運営に参加。 ・生涯学習の事業(イベント)等に企画段階から協力。 ・生涯学習コーディネーターとして、生涯学習講座や公民館講座のプログラムづくりに取り組む。
イの理由	<ul style="list-style-type: none"> ・活用する場がない。(複数) ・岐阜県生涯学習コーディネーターについての認識が十分でない。 ・コーディネーターの活動内容や活動実績、スキルレベルなどがわからない。(複数) ・どのような内容をどのようなプログラムでやるのか、具体的な内容がHPをみてもわからない。 ・住民の要望に適合するコーディネーターがいない。(複数) ・活用する機会と余裕がない。 ・町内在住のコーディネーターを把握していない。 ・今は無理だが、今後活用したい。
ウの理由	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターが独自に活動しているため。 ・地域の現状を理解したコーディネーターがいない。(複数) ・人材を把握できていない。 ・コーディネーターの情報が多く、スキルも不明なため。 ・市内学習サークル等の指導者や地区のまちづくり組織等で活動している人材でないと、実際的な活動の場はないと考えるため。 ・地区コミュニティセンター(公民館)を拠点とした生涯学習を進めており、コーディネーターという新たな立場での定着は難しいため。

・県が養成した「岐阜県生涯学習コーディネーター」を実際に活用しているのは4市町村で昨年より減少している。また、活用を考えているが実際には活用できていない市町村が25市町村に達しており、活用する意思はあるが活用できていない市町村が多い。理由は『「岐阜県生涯学習コーディネーター」に対する認識の不足』、『「岐阜県生涯学習コーディネーター」の活動内容や活動実績、スキルレベルがわからないという情報の不足』、『活用する場がない』、『住民の要望と合致する人材がいない』などがあげられている。

E 高齢者に対する取組について

1 9 高齢者を対象とした取組

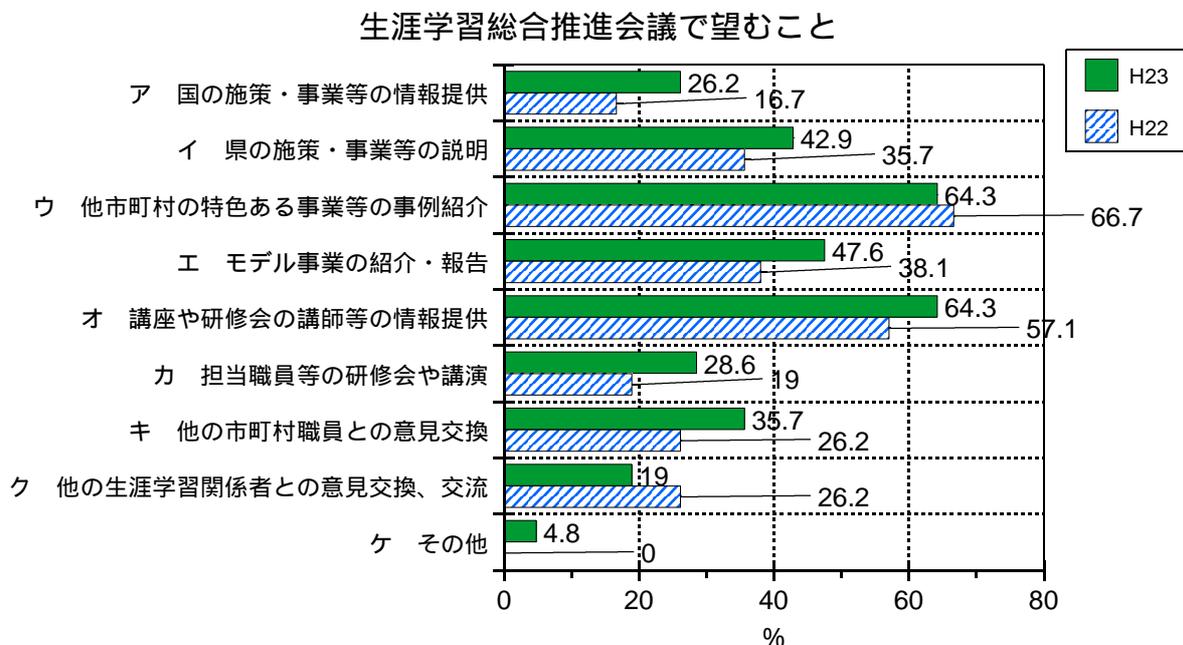
(H22は「団塊の世代」を対象とした取組)



・36市町村で高齢者を対象とした取組を実施している。その主な内容は、「趣味・教養の講座の開催」である。

F 「生涯学習総合推進会議」について

2 0 生涯学習総合推進会議で望むこと



・総合推進会議では、『県内市町村の特色ある事業等の事例紹介』や『地域づくり型生涯学習モデル事業の紹介』、『講座や研修会の講師等の情報提供』の実施が望まれている。

G その他

2 1 生涯学習全般に対する意見・要望

現在、どうしても講座や習い事が中心となっている。地域づくり型事業を行い、地域の活性化と人々の交流を推進したい。

具体的で分かりやすい情報の提供を、いかに市民へ周知するかが課題である。地域づくり型生涯学習は市民が行政に参画してまちづくりを行うわけであるが、受講者が企画した活動内容は、必ずしも市政や市の財政を考慮したものであるとは言えない。受講者がそのあたりに精通している方ならば地域づくりとして実現可能な案が作られると考えるが、現状では人材確保等で難しい。結局、行政が主導になり受講者の主体性をいかせないのではないかと懸念している。

県内市町村における統一フォーマットによる方針・計画の策定（県の生涯学習振興指針等に基づく図式化、具体化したもの）をつくるべき。

県内市町村での施設・講座等の内容をまとめ一覧にし、広域での学習サポート体制を作る。例えば、町で利用できない、施設に空きがないときに他の施設を案内できるようにするなど。

生涯学習と社会教育に部分で、両方から同じようなアプローチを受け、二重構造になっている。小さな市では、職員が少ないため両方を担当しなければならず、性格が若干異なるところもあるが、一本化していくべきではないかと感じている。

当市では、地域づくりの取り組みを各部局で実施しているが、「生涯学習」という位置づけでは実施していない。

生涯学習情報誌について、お互いの情報や講座を互いの町民や市民に知っていただき、受講者や仲間を増やす目的で、隣市と共同で発行している（定住自立圏の形成に関する協定書に基づく）。このように、複数の市町村で情報誌を共有し、講座を進めている市町村でどのような問題点や課題があるか、また、市町村が単独で情報誌を作成し講座を行っている市町村も、今後は複数で行っていくことがあるのか知りたい。

地域・人材発掘のノウハウ・事例を紹介してほしい。

知事部局と教育委員会部局との連携を望む。